

東部地区まちづくり計画

東部地区まちづくり協議会

東部地区まちづくり協議会の基本方針

東部地区コミュニティは、平成28年4月に其の組織を東部地区まちづくり協議会（以下、まち協）に其の活動の主体を移管し発足しました。

東部地区では、まち協の設立を求められる以前から、東部地区コミュニティの確立した行事として、各種専門部会活動、福祉活動、その他の社会活動を展開してきたことを、時代の先駆者として自負しています。

しかし好転しない経済環境の継続、少子高齢化、公共対策費用の削減等は、私たちの生活環境、社会インフラ削減、利便性の低下、高齢者偏重に伴う社会活動の変化が生じてきています。

まち協では、専門部会の活動を時代のニーズに合った内容に改定する等、地域づくりを継続する為に、活動の母体となる専門部会を運営委員会メンバーに組み入れ、定期的に会議を開催するとともに、専門部会の独自性を強化する組織・部会運営を進めているところです。

また、少子高齢化は、日本全国共通の課題ですが、従来から育成部主体の活動、行事を多数開催する事で、子供たちの地域行事参加意識の改善と、年齢による意識の距離を無くしてきております。例えば、高齢者の行事として中学生が司会する敬老会、さらに幼児から高齢者まで全ての年代が参加し楽しめる文化演芸大会を開催する等、環境整備を実施しています。

東部地区まち協の設立は、亀山市の組織の中ではかなり遅く、亀山市の関係者をやきもきさせましたが、まち協では既に東部地区の体制と活動を、まちづくりの体制で進めていたことから、まち協関係者は拙速を避けて、十分時間をかけて改組活動を進めました。

設立に際して、地区住民の環境意識、要望等を把握するため全戸アンケートを実施するとともに年代別、性別などで分類し、層別した地域住民の意見を集約しました。

これらの意見を基にまちづくり準備委員会で議論を重ね、東部地区のまちづくりを進める為に「東部地区まちづくり計画」を制定し、「東部地区、ゆとりある生活ビジョン」と名付け具体的計画を策定することとしました。

1、東部地区まち協の地理的、文化的認識

東部地区は亀山市の南東に位置し、北鹿島町、南鹿島町、阿野田町、二本松、菅内町、樺野、中野と4町3地区で構成されています。

東部地区の中央を鈴鹿川が流れ、北部地区と南部地区、そして東地区に分かれます。

- ・北鹿島町は、亀山高等学校の丘陵下にあり、県道28号と関西本線で東部地区からやや乖離した環境にあります。

- ・南鹿島町も関西本線と鈴鹿川に挟まれた住宅地で周囲から離れた環境に有ります。

鈴鹿川以南には、阿野田町が広範囲に位置すると共に、二本松団地を中核にした二本松地区、更に、東には、菅内町と樺野、中野地区が配置する形態で構成しています。

- ・東部地区には、住宅と農地が多いが、菅内、樺野、中野地区には、工場・トラックステーション等が点在し、菅内には平成29年12月に新しくスーパーマーケットが開店しました。

東部地区の人口と構成、特色

(1) 人口の推移 (住民台帳より)

	平成17年 (2005)	平成25年 (2013)	平成29年 (2017)	令和2年 (2020)
亀山市総人口	48,883	50,017	49,795	49,573
東部地区	3,033	3,025	2,983	2,853
男	1,521	1,526	1,519	1,473
女	1,492	1,499	1,464	1,380
～64歳	-	2,266	2,182	2,049
65歳～	-	759	801	804
東部地区世帯数	1,141	1,286	1,305	1,322

(2) 年齢別、男女別人口 (令和2年10月1日 住民台帳より)

	男	女	合計
年少人口 (0～14歳)	190	152	342
生産年齢人口 (15～64歳)	930	777	1,707
高齢人口 (65歳以上)	353	451	804
合計	1,473	1,380	2,853

2、東部地区の道路と、交通インフラ

東部地区の中央を貫通する幹線道路は、県道亀山安濃線です。北から南に走る道路を木の幹に例えるならば、木の天辺の枝葉が鹿島地区、阿野田、二本松が大木の幹、菅内、樺野、中野が東に伸びた大きな枝に成ります。

交通インフラは、この大木の天辺と幹の部分のみカバーしています。

しかし、東に伸びた3地区には公共交通機関が通っていません。

東部地区を縦横断する大きな道路は、県道亀山安濃線、県道28号線（旧国道1号線）と県道鈴鹿関線で、それ以外は曲折した細い道路が大半です。

3、東部地区の歴史と文化

東部地区は、元々『榎尾村』と呼ばれ、広大な面積を占めていました。現在は「北鹿島町」「南鹿島町」「阿野田町」「菅内町」の4町となり、7自治会で管理上合理的な規模で運営されています。

阿野田自治会では、「かんこ踊り」「盆踊り」等、過去から継続する歴史的な祭り、慣わし、組織が存在し活動を継続しています。

菅内、樺野、中野地区は比較的規模が小さい集落で、菅内自治会の「亥の子」が継続されるなど昔からの慣わしを守ってきていますが、過疎化が課題と成っています。

北・南鹿島地区と二本松地区は新興住宅地で歴史的文化はありません。

4、東部地区のまちづくり、地域づくり計画

東部地区まち協は、地域住民の創意工夫と責任のもとに、安心・安全で住みよいまちを維持・形成すること基本目標とし、次に掲げる地域づくりを目指します。

- 1 個人が尊重され、お互いが助け合う地域
- 2 災害、犯罪のない安心、安全な地域
- 3 豊かな自然環境が守られている地域
- 4 歴史、文化が継承されるとともに新しい文化が生まれる地域
- 5 人々が豊かな心で、生きがいのある生活が営める地域
- 6 その他地域づくりに必要な事業

5、東部地区、ゆとりある生活ビジョン

「東部地区まちづくり、地域づくり計画」を実効有るものするために、時代に即した有り方を模索しながら、「東部地区、ゆとりある生活ビジョン」として具体的行動計画を作成し、定期的に見直すものとする。

平成30年4月22日施行

令和4年3月13日改定